

- ▶第63回学校代表者協議会特集 (2～3面)  
▶第6回全国災害支援連絡会議 (3面)  
▶関西地区新任教師研修会 (〃)  
▶中小規模大学連携協議会 (4面)  
▶キリスト教教育者物語 (〃)  
▶キリスト教Q&A、公募 (〃)

# キリスト教学校教育

1

2020・2021年度教研テーマ  
キリスト教学校の使命と可能性—いのちの尊さと平和を求めて—

(一社)キリスト教学校教育同盟  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館72号室  
電話 03(6233)8225  
FAX 03(6233)8226  
理事長 西原 廉太  
編集人 田村 浩一  
頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれています)  
(毎月1回15日発行)

## キリスト教学校教育懇談会第19回講演会

2021年11月20日(土) オンラインで開催される

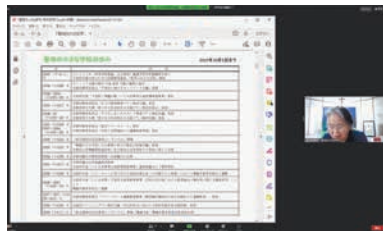
いま、キリスト教学校が大切にしたいもの  
—小さな豊かさに学ぶ—



### 清水勝幸氏の基調講演

日本カトリック学校連合会と教育同盟が共同で運営する、キリスト教学校教育懇談会主催の第19回講演会が2021年11月20日(土)、前回に続いてオンラインで開催され、74名が参加した。

吉田幸一氏(前ブル学院理事長)の進行のもと、ミカエル・カルマノ日本カトリック学校連合会理事長の開会挨拶、山本与志春青山学院院長の開会挨拶に続き、「いま、キリスト教学校が大切にしたいもの」喜びの発見者となるために」と題して清水勝幸氏(前



梅澤良子氏



泉川道子氏

聖ヨゼフ学園中学校・高 等学校校長)が基調講演を行った。「教え導く者から、共に歩む者、共に学ぶ者へ」の転換が求められている中、かけがえのない存在として、神に創造された私たちは、自 己も最も小さいものの一 人であることに感謝し、 日々の生活の中にある 学校(梅澤良子氏)で、 「小さな豊かさ」を、喜 ぶこと、京都府舞鶴市にあるフ

ィスクールでの、学校に行けなくなった子どもたちが、ここでの学びを通して成長するプロセスの中で大切にされていることが紹介された。2は愛農学園農業高等学校(泉川道子氏)で、三重県伊賀市にある日本で唯一の私立農業学校で実践されている「いのち」を大切に する人を育てることを 目指す教育について紹介された。

休憩後、数人ずつに分かれた50分間のグループディスカッションが行われ、まとめの時間には各グループの報告が行われた。最後に西原廉太キリスト教学校教育同盟理事長の閉会挨拶、栗本嘉子京都ノートルダム女学院 学院長の閉会挨拶で終了した。

(事務局報)

### 加盟校動静

自由学園  
2021年に創立100周年を迎え、記念事業の一環として、2021年12月1日に『自由学園100年史』を刊行した。詳細は(学)自由学園ホームページを参照。

### <行事予定>

- 1/15 第64回小学校代表者研修会  
(西南学院小学校・オンライン併用)  
6/3・4 第110回定時総会  
(横浜共立学園)

2021年12月3日に開催された「学校法人ガバナンス改革会議」では「報告書」がまとめられたが、その後の文科省事務局とのやりとりは前代未聞の展開となった。事務局側が、今後、広く意見を吸い上げたいと発言したが、それに対して、「ヒアリングは十分行ったので不要、国民から意見など聞かず、行政は報告書通りに法制化せよ」などの暴論を繰り広げ、異様な光景となった。私大連等へのヒアリングは5分以下で、しかもそれらの見解は一切取り上げられなかった。報告書自体もわずか11ページで、論理構成も完全に破綻している代物であった。

### 「建学の精神」を瓦解させる 「学校法人ガバナンス改革会議」の議論



西原 廉太

ナンスのあり方を学校法人に当てはめること自体、滅茶苦茶である。株式会社は、ステークホルダーである株主からの委任を受けて取締役会が意思決定、執行

任に当たることになるのかの説明がつかず、委任と受任との関係性に矛盾が生じる。当該学校法人の理念や、教育・研究の諸方針に精通していない学外者が、

学校法人の重要事項を決することなどできないはずである。各学校がガバナンスを強化すべきは言うまでもないが、それはガバナンス・コードの活用など、自律的になされるべきである。キリスト教学校教育同盟でも末松信介文科大臣宛てに要請文を送り(本紙2021年11月号1面に掲載)、私立学校の「建学の精神」を瓦解させ、健全な教育研究、運営を著しく棄損するものであるとの重大な懸念を表明した。その後、文科大臣も、関係者の意見が十分に反映されていないことを認め、報告書以外に各方面の見解も聴取することを明らかにしている。

1899年に、学校での宗教教育を禁ずる「文部省訓令第12号」強制という事態に直面し、危機に立たされた日本のキリスト教諸学校が、結束して抵抗したことを、今こそ思い起こしたい。

(立教大学総長、教育同盟理事長)

それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会に一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

(使徒言行録11章25～26節)

ここではアンティオキアの教会の弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったエピソードが語られています。キリスト教はユダヤ教の一派からスタートしたため、ユダヤ教の影響を強く受けたのは当然のことでした。敬虔なユダヤ人家庭出身のイエスさまもユダヤ教の教えの中で成長されましたが、30歳を過ぎた頃から厳格なユダヤ教社会の中では虐げられた人々にこそ神さまの愛が注がれていると語り始められました。後の弟子たちはイエスさまの意志を受け継いで伝道活動を展開していきます。この箇所ではアンティオキアでイエスさまこそがキリスト(救い主)だ、と信仰を証する人々が起こされたのです。

この場面を読むとわたしにはいつも目に浮かぶ情景があります。悪意のある者たちが教会の人々を「救い主の

### 聖書のことば



青木麻里子

連中」と揶揄します。すると、教会の人々はその言いぐさをポジティブに受け止め、「そうだ、わたしたちは救い主の連中だ。キリスト者だ!」と発信し始めた、そんな情景です。このキリスト者という呼び名が教会の人々のアイデンティティーとなったのです。

わたしは、奉仕する学院における礼拝、キリスト教行事、授業などの全ての教育活動を通して学院が神さま、イエスさまの愛を示す存在であって欲しいと願っています。それがキリスト教学校に勤める方々の変わらざる思いであり、それこそがキリスト教学校のアイデンティティーではないでしょうか。中高の卒業生の方が、「わたし、卒業生です」と話しかけて下さることが多くあります。その時、わたしにはセーラー服に身を包んだ若き日のはにかむ笑顔のその方の姿が見える思いがします。「卒業生です」という言葉の中に、わたしは「キリスト者」と呼ばれた人々と同じようなイエスさまに連なる希望、喜び、平和を感じ、嬉しさがこみあげてくるのです。このようなキリスト教学校の豊かさをこれからも大切にしていきたいと新しい年の始まりに心を新たにしています。

(福岡女学院チャプレン長)



# 第63回学校代表者協議会

(21年11月6日  
フェリス女学院配信)

## 新しい時代を切り拓く女性を送り出す

フェリス女学院院長 鈴木佳秀

I 創立150周年まいた先覚者。高札が撤去された(1873年) 切支丹禁令の高札が、居留地の横浜山手に、女性には教育の必要校舎寄宿舎を完成(1875年)させ、アメリカ性で全く考えられていた(75年)改革派教会(RCA)海外伝道局総主事であったフェリス父子の名を掲げ「フェリスセミナリ」を自分の召命と感じてと命名。

II 二代目ブース校長時代の1899年訓令十二号の発令により宗教教育が禁止され、フェリス女学院は各種学校の道を選択しフェリス教育を守る決断。1923年9月の浜大空襲で一部校舎焼失、8月の敗戦後、9月から翌年5月まで進駐軍が校舎を接収。その後、宣教師団が再来日。RCAからの財政的な支援があり再建。

戦後1947年に中学部(中学校)開設、1948年高等科(高等学校)開設、1950年校名をフェリス女学院と改称。1960年RCAから最後の年度補助金を受け財政的に独立。1965年大学(文学部英文文学科・国文学科)開設。1988年(文学部国際文化学科開設)緑園校舎開設。

III ミッションステイトメントに込められた決意



II 二代目ブース校長時代の1899年訓令十二号の発令により宗教教育が禁止され、フェリス女学院は各種学校の道を選択しフェリス教育を守る決断。1923年9月の浜大空襲で一部校舎焼失、8月の敗戦後、9月から翌年5月まで進駐軍が校舎を接収。その後、宣教師団が再来日。RCAからの財政的な支援があり再建。

戦後1947年に中学部(中学校)開設、1948年高等科(高等学校)開設、1950年校名をフェリス女学院と改称。1960年RCAから最後の年度補助金を受け財政的に独立。1965年大学(文学部英文文学科・国文学科)開設。1988年(文学部国際文化学科開設)緑園校舎開設。

III ミッションステイトメントに込められた決意



配信会場

に寄与する人を世に送り出す」という基本理念を公表。

III 中長期計画にみる150周年記念のその先を目指した課題

All Fellsを実現するため150周年記念の力ウンタウのイベントを山手で、中学校高等学校と大学音楽学部の協力を得て記念講演と演奏会を実施。昨年10月の記念式典は中止したが、教員の自己変革を続けながら「For Others」の理念を生徒や学生たちと共に尊ぶ姿勢で、未来を

歩むことにほかならぬ。更に重要なことは、打ち続く災害に意気消沈することなく、災害の「既に」と「未だ」を包摂するフェリスの「既に」と「未だ」に基づく終末論的な希望を堅持し、つつ力強く歩んでいくことである(ローマ5章3〜5節)。

とて、東日本大震災による大津波とそれに連動する福島第一原発事故に遭遇した時、私は最も早く以上の大きな災害は起りえないであろうとの思いに捉えられた。しかし、今回のコロナ禍が関係性を如何に縮め、深めるのかという道を、教員現場で模索し続けなければならない。

さらに今回の経験を通して感染症が生じた初

期には、一切に優先して「逃れる」ことの重要性を思い知らされた。星野富弘さんが、少年時代に渡良瀬川の急流に呑み込まれた時、流れに抗して元の場所に必死に返ろうとしても全く歯が立たなかったが、考えを変えて流れに身を委ねた。特にフェリス女学院や社会事業においては、「イエス・キリストの精神」を人々に伝え、キリスト教主義によって人格教育や福祉事業が行われることが強調されるようになってきた。このことは社会の変化の中で非常に大きな意味があり、日本のフェリス女学院教育を新たに意味づけることになりました。

たフェリス女学院が、未来に向けてキリスト教信仰に基づく「For Others」を教育の中心に置くことを宣言したのも、この自由と自律を尊重する教育を通して、絶えず他者を尊び、自己に誇りをもち、広く多様な人々や社会と交流し、実りある豊かな社会や世界の平和とその発展

のオンライン講演に聴き入った。深く心に突き刺さってきたメッセージは、「災間」という言葉だ。震災と向き合い続けてきた方々の間で用いられるようになった言葉だ。災害列島日本で生きる私たちが、「災害」と災害の間を生きる存在であること

を意味している。キリスト教学校にとって肝要なことは、過去の災害を振り返るだけでなく、来るべき災害に備えつつ、「氣を付けて目を覚まし

て」(マルコ13章33節)

の学校が、途方もなく過酷な対応を迫られることになっていったであろう。それだけに今回の経験をよく踏まえ、はるか昔に渡良瀬川の急流に呑み込まれた時、流れに抗して元の場所に必死に返ろうとしても全く歯が立たなかったが、考えを変えて流れに身を委ねた。

特にフェリス女学院や社会事業においては、「イエス・キリストの精神」を人々に伝え、キリスト教主義によって人格教育や福祉事業が行われることが強調されるようになってきた。このことは社会の変化の中で非常に大きな意味があり、日本のフェリス女学院教育を新たに意味づけることになりました。

コロナ禍と呼ばれる事態が長く続き、私たちの生活や学校の営みに多大な影響を与えています。キリスト教学校にとっては、そのアイデンティティともいえる礼拝や宗教行事が当たり前にできなくなっていることは大きな危機であり、同時に私たちの大きな問いを投げかけるものであると思います。

摘されて「わたしはあの人を知らない」と三度も否認した、と聖書は記しています。ペトロはその後主の予告と

祈ってくださいたという主の言葉を思い起こしたからではないでしょうか。この主の言葉は、十二弟子に続く後の教会の信徒たちに、また現在の私たちに、主が私たちの弱さや危機を知っておられ、私たちのために祈ってくださいることを覚えるように記されているのだと思います。

このコロナ禍で私たちは、キリスト教学校の空気を生み出しているものの、学校として本質的な部分が変わってしまいかねない危機にさらされています。その中でそれぞれの学

校、教師が努力と工夫を重ね、新たな挑戦もしてきました。しかし、私たちの努力や工夫がすべてではありません。主はペトロの離反を予告し、彼のために祈っただけでなく、「立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」と彼に期待して使命をお与えになったのです。私たちにもこの試練の中で、またその後に、神が使命を与えてくださっていることを心に留めたいと思います。

「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

宣教師団・宣教師によって設立された日本のミッションスクールは、その当時の宣教理念であった「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

宣教師団・宣教師によって設立された日本のミッションスクールは、その当時の宣教理念であった「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

宣教師団・宣教師によって設立された日本のミッションスクールは、その当時の宣教理念であった「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

宣教師団・宣教師によって設立された日本のミッションスクールは、その当時の宣教理念であった「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

### 開会礼拝説教

#### 主イエスが祈ってください

ルカによる福音書22章31〜32節



野田 美由起

最後の晩餐の場面で、主イエスはペトロに向かって「サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた」と言われ

おり主を裏切った自分に気づいた時、外に出て激しく泣きました。それは自分の情けなさを嘆いただけではなく、その自分のために

祈ってくださいたという主の言葉を思い起こしたからではないでしょうか。この主の言葉は、十二弟子に続く後の教会の信徒たちに、また現在の私たちに、主が私たちの弱さや危機を知っておられ、私たちのために祈ってくださいることを覚えるように記されているのだと思います。

このコロナ禍で私たちは、キリスト教学校の空気を生み出しているものの、学校として本質的な部分が変わってしまいかねない危機にさらされています。その中でそれぞれの学

校、教師が努力と工夫を重ね、新たな挑戦もしてきました。しかし、私たちの努力や工夫がすべてではありません。主はペトロの離反を予告し、彼のために祈っただけでなく、「立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」と彼に期待して使命をお与えになったのです。私たちにもこの試練の中で、またその後に、神が使命を与えてくださっていることを心に留めたいと思います。

「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

宣教師団・宣教師によって設立された日本のミッションスクールは、その当時の宣教理念であった「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

宣教師団・宣教師によって設立された日本のミッションスクールは、その当時の宣教理念であった「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

宣教師団・宣教師によって設立された日本のミッションスクールは、その当時の宣教理念であった「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

### 発題 I

#### 災間のなかを歩むキリスト教学校

宮城学院学院長 嶋田順好

のオンライン講演に聴き入った。深く心に突き刺さってきたメッセージは、「災間」という言葉だ。震災と向き合い続けてきた方々の間で用いられるようになった言葉だ。災害列島日本で生きる私たちが、「災害」と災害の間を生きる存在であること

を意味している。キリスト教学校にとって肝要なことは、過去の災害を振り返るだけでなく、来るべき災害に備えつつ、「氣を付けて目を覚まし

て」(マルコ13章33節)

の学校が、途方もなく過酷な対応を迫られることになっていったであろう。それだけに今回の経験をよく踏まえ、はるか昔に渡良瀬川の急流に呑み込まれた時、流れに抗して元の場所に必死に返ろうとしても全く歯が立たなかったが、考えを変えて流れに身を委ねた。

特にフェリス女学院や社会事業においては、「イエス・キリストの精神」を人々に伝え、キリスト教主義によって人格教育や福祉事業が行われることが強調されるようになってきた。このことは社会の変化の中で非常に大きな意味があり、日本のフェリス女学院教育を新たに意味づけることになりました。

### 発題 II

#### コロナ禍に問われるキリスト教教育

関西学院大学神学部教授 中道基夫

遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

宣教師団・宣教師によって設立された日本のミッションスクールは、その当時の宣教理念であった「神の国の拡張」と密接に関係していました。この「神の国の拡張」を実現するために、宣教師の人々は献金し、未知の外国へ多くの宣教師を派遣してきました。この理念を実現するために展開されたのが、教会・教育・福祉が一体となる宣教政策であり、特に日本における宣教においては、ミッションスクールの設立は最も有効な宣教方策であったと見なされています。日本にまで教会や学校が設立されると、世界中がクリスチャンになり、「神の国の拡張」の実現も夢ではないと考えられていたのです。

が、今年は東日本大震災から10年という節目の年でもあり、宮城学院中高等学校では石巻市立大川小学校児童の遺族、佐藤敏郎氏



が、今年は東日本大震災から10年という節目の年でもあり、宮城学院中高等学校では石巻市立大川小学校児童の遺族、佐藤敏郎氏



が、今年は東日本大震災から10年という節目の年でもあり、宮城学院中高等学校では石巻市立大川小学校児童の遺族、佐藤敏郎氏



(2面よりつづく)

も増えているといわれていいます。教育現場では、学校に来る意味というものが揺らぎ、これまで学校を支えていた考えが瓦礫な社会変化の中で、傷つ解してしまったのではないだろうか。このように状況の中で、論理性を重んじ、理想の姿をイエスに見いだし、高い倫理性と人格教育を目指すキリスト教教育理解では限界が来ているのではないだろうか。むしろ、弱さや苦しみを表出しそれが受け入れられることが、その弱さを表し思われます。

## 発題まとめ・鼎談

キリスト教学校教育同様に「未だ」を包摂する第63回学校代表者協議会の、イエス・キリスト会がオンラインでの開催となったが、会場校をお引き受けたいたったフェリス女学院にて、宮城学院院長の嶋田順好先生、関西学院大学教授の中道基夫先生にそれぞれ発題いただいた。

嶋田先生は、「災いの間」を歩むキリスト教学校の存在、私たちが「災いの間」を生きている存在、災害列島日本に生きる私たちの定めであり、さらには、地球温暖化がもたらす自然災害の想定外の巨大化、増大化、新たな感染症の増大など、過去の災害の回顧にとどまらず、到来する災害に常に備えることが必要不可欠である。「災いの間」の「既

### 鼎談配信



全国災害支援連絡会議は2011年の東日本大震災を契機に、全国各地で頻発する地震や風水害などの自然災害に対し、児童・生徒・学生・教職

### 全国災害支援連絡会議

## 阪神・淡路大震災の記憶を未来につなぐ

松蔭中学校・高等学校で開催(オンライン併用)

員らの命を守り、それぞれの学校法人が連携して危機に対応していくための「備え」を目的として活動して参りました。

2020年1月からのCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)によるパンデミックは、まさに世界的規模の自然災害に匹敵する災禍となりました。キリスト教学校教育同盟加盟校の働きにおいても、一つの場所に集まり、共に学ぶという機会を持つということが難しい状況が続いています。そんな中にある中で、神につながる教育共同体としての働きが祝福されます。

昨年の「新型コロナウイルスCOVID-19への

たり、他者の弱さを理解することができるといわれています。教育現場では、育成が求められていると云えます。また、次々に起こってくる災害や大きな社会変化の中で、傷つた魂がその傷を受け入れながら回復すること、身につけるためには、キリスト教の持つ神秘性、交わりや身体性、居場所、性、人格教育を目指すキリスト教教育理解では限界が来ているのではないだろうか。むしろ、弱さや苦しみを表出しそれが受け入れられることが、その弱さを表し思われます。

嶋田先生は、「コロナ禍に問われるキリスト教学校教育」と題して、YMCの歴史を紐解きながら、そもそも「宣教」とは、教会「教育」福祉が一体となったものであることを指摘された。とりわけ、引用された「900年のジョン・モット」の以下の言葉は重要である。「もしミッショナリが宣教師活動として失敗するのなら、それは教える内容のせいではなく、宣教の目的を見失っているからです。宣教の目的を見失ったからではなく、宣教師の心を持って人を行っていないからです」。このモットの言葉に、現在の私たちキリスト教学校は誠実に応答しなければならぬ。また、コロナ禍の中で問われたことは、日常との距離、人間関係や「余白」の欠如、自殺率の増加という事態の中で、余白「居場所」、「サードプレイス」の必要性であると強調された。しかしながら、そもそも学校は「サードプレイス」になり切れない。むしろ、なろうとす

新しいかたちになること(復活)ではないかという理解と、嶋田先生が引用された星野富弘さんの「何もあそこに戻らなくともいいんじゃないか。流されている私に、今でこそ、教会「教育」福祉が一体となった中「パンデミック」という大きな物語に飲み込まれることなく、一人ひとりの物語が回復されること、その意味での「レジリエンス」を大切にすることが、私たちキリスト教学校の課題であることと確認した。

西原康太先生が示された、「治癒の原因を除去し、元の姿に戻るのではなく、新しいかたちになること(復活)ではないか」という理解と、嶋田先生が引用された星野富弘さんの「何もあそこに戻らなくともいいんじゃないか。流されている私に、今でこそ、教会「教育」福祉が一体となった中「パンデミック」という大きな物語に飲み込まれることなく、一人ひとりの物語が回復されること、その意味での「レジリエンス」を大切にすることが、私たちキリスト教学校の課題であることと確認した。

今回の研修会では、坪井智司祭(松蔭中学校・高等学校チャプレン)による司式、メッセージの後、阪神淡路大震災を記念して建てられた慰霊碑を巡るフィールドワークを行いました。現地参加者はタクシーと徒歩での移動、碑巡りでは案内役の坪井司祭がiPhoneのカメラをZoomで生配信。中継の合間に世界規模の自然災害に匹敵する災禍となりました。キリスト教学校教育同盟加盟校の働きにおいても、一つの場所に集まり、共に学ぶという機会を持つということが難しい状況が続いています。そんな中にある中で、神につながる教育共同体としての働きが祝福されます。

昨年の「新型コロナウイルスCOVID-19への



フィールド・ワーク

### 関西地区

## キリスト教学校に勤めるということ

### 新任教師研修会

2021年11月13日(生(清教学園)の説教にて「キリスト教学校の使命と可能性」ののちに、グループワークを尊と平和を求めて」というテーマのもと、関西地区の新任教師研修会が開催されました。例年、一つの目的は、自分の身のまわりのことですが、今年度は、今年度が所属するチームの中で自分はどういう役割を担っているのか、または、二つ目は、今までの経験から、これからキリスト教



川口僚佑氏の発題

一般社団法人キリスト教学校教育同盟「eラーニング」による教員免許状更新講習について

いつでも、どこでもインターネットで受講が可能です。

・キリスト教学校教育を土台とした講座です。  
・21年度締切3月30日  
詳細は教育同盟ホームページかQRコードよりご覧ください。





